

迎古夢旅 4626 : **イベリア半島・旅の途上・今昔が交差** P164



この光景、迎古夢旅 4562、迎古夢旅 4602、とも違う。

こうした異国でのひとり旅をしていると、いろいろな出会いがある反面、事件も遭遇する。

1日1日を大切に。翌日に、何事も持ち越さないように心がけている。

同じように見えて、同じでない大自然。身体と心と呼吸を整えるひと時。至福の時間。

ひとり旅も人生も、自然から、パワーをもらおう。**祖母が、口にしていたことがある。**

考えることが小さい、**男だろう**。この世のことは、この世でおさまる。

山より大きな獅子は出ない。今に集中すること。ふと、脳裏をかすめた。時に、登場する。

明治生まれ。戦前、女手一つで、店を仕切り、一人っ子の、親父殿を育てた。

下記は、迎古夢旅 4604、一歩も二歩も、前進したことで、私には、赤い花が主役に。

